

第 67 期（平成 28 年度）事業の概況

1. 会 員

会員数は、平成 28 年 12 月 31 日現在、名誉会員 4、個人正会員 1,724、団体正会員 363（408 口）、学生会員 202 の計 2,293 であった。理事会・会員委員会を中心に会員数の増強に努力し、個人正会員 105、団体正会員 9（11 口）、学生会員 94 の新入会・復会を得たものの、個人正会員 157、団体正会員 9（11 口）、学生会員 93 の退会があり、個人正会員 10 のご逝去とあわせて前年同期に比べ計 61 が減少した。

2. 会 計

当初予算は、平成 28 年 1 月末の会員数及び景気の動向などを考慮し、前年度予算より 152 万 1 千円収益減、124 万 7 千円費用減とした。

これに対して、受取会費は予算額の 99.3%と下回り、受取会費のうち、団体正会員会費は予算額の 99.9%、個人正会員会費は予算額の 98.6%、学生会員会費は予算額の 94.9%であった。一方、前年に引き続き、各事業の活性化を進めた結果、事業収益は予算額の 100.6%となった。事業収益のうち、講演大会収益、学術セミナー収益、会誌発行収益は予算を上回り、展示会収益は予算並みであった。部会事業の収益は予算額に達しなかったが、会場費・印刷製本費などの費用節約を図り、当期経常増減額は予算額の 100.6%となった。

以上より、当期経常増減額は 1,784 万 2 千円と予算額の 126.9%となり、本会全体の正味財産は 6,377 万 5 千円となった。なお、将来計画事業積立資産に 500 万円を積み増した。

3. 講演大会等

講演大会は、春季（第 133 回：早稲田大学 西早稲田キャンパス、3 月 22 日～23 日）及び秋季（第 134 回：東北大学 川内北キャンパス、9 月 1 日～2 日）の 2 回開催され、両大会の合計発表件数 327 件、参加登録者 883 名であった。シンポジウム及び武井記念講演会は聴講者も多く、大会の活性化に寄与した。

春季大会において「第 22 回学術奨励講演賞」を 8 名に授与した。秋季大会においては、「第 18 回優秀講演賞」受賞者 3 名及び「第 5 回学生優秀講演賞」受賞者 5 名を選考し、第 135 回講演大会において授与する予定である。

第 73 回表面技術アカデミック研究会討論会として「表面技術に役立つ放射光・中性子線」（早稲田大学 西早稲田キャンパス、11 月 24 日）を開催した。

4. 会 誌

12 テーマの小特集及び特集を企画し、年間 12 号の会誌「表面技術」を発刊した。ページ数は総計 696 ページ、掲載論文は、研究論文 20 件・技術論文 5 件・ノート 2 件・速報論文 3 件であった。

また、J-Stage [科学技術情報発信・流通総合システム；(国研)科学技術振興機構] には、「表面技術」の前身誌である「金属表面技術」及び「現場パンフレット（後改称：実務表面技術）」の創刊号から第 66 巻(平成 27 年)12 号まで掲載している。

5. セミナー

夏季セミナー“表面処理基礎講座（Ⅰ）”（早稲田大学 西早稲田キャンパス、6月16日）のほか、“めっきプロセスの基礎と評価実習”（東京理科大学 野田キャンパス、8月3日～4日）、“ドライプロセスの基礎と薄膜作製”（千葉工業大学 津田沼キャンパス、8月25日～26日）、“めっき液の分析と管理”（神奈川大学 横浜キャンパス、9月13日）、“めっき現場における要素技術”（千葉工業大学 津田沼キャンパス、10月19日）、“表面処理基礎講座（Ⅱ）”（早稲田大学 西早稲田キャンパス、11月15日）を開催した。参加者の合計は379名であった。

6. SURTECH

“SURTECH 2016—表面技術要素展”は、主催：本会・日本鍍金材料協同組合・JTB コミュニケーションデザイン、後援：全国鍍金工業組合連合会・日本表面処理機材工業会により、“nano tech 2016（国際ナノテクノロジー総合展・技術会議）”など10の展示会と同時開催した（東京ビッグサイト、1月27日～29日）。出展社（機関）は、57社99小間で、特別企画展示「進化する表面処理～金属から新材料～」では、我が国のめっき加工業を牽引するめっき専門社の出展や「ウェット及びドライプロセスの実演コーナー」との相乗効果により多くの来場者を集めた。全体の来場者は48,514名であった。また、“SURTECH 2017”の開催に向けて準備を進めた（東京ビッグサイト、平成29年2月15日～17日）。

7. 国際交流

9月20日～22日に中国／China National Convention Center（北京）にてINTERFINISH 2016（第19回表面技術国際会議）が開催され、Co-Organizerとして国際的技術交流に成果を収めた。会議は基調講演11件（本会より1件）、Technical Session 281件（ポスター含／うち日本25件）、参加者は約500名であった。また、会期中 Council Meeting が開催されることから、君塚副会長を代表として3名を派遣した。Council Meeting では、The International Union for Surface Finishing (IUSF)の規約や活動状況などの情報収集に努めるとともに、次回開催案内としてFirst Circular を配布した。また、国際会議附属の展示会会場に用意された小間に、ポスターを展示した。

また、国際学術交流委員会、中部支部においてINTERFINISH 2020の日本（名古屋）開催に向けて検討/準備を開始した。

8. ISO 規格検討専門委員会

国際標準化機構（ISO）のTC 107部門（金属及び無機質皮膜）の国内審議団体として、特別委員会の中にISO規格検討専門委員会（兼務：ISO/TC 107国内対策委員会）を置き、国際規格の制定などに協力した。また、ISO/TC 107第29回総会を平成29年1月16日～20日、柏の葉カンファレンスセンターにて開催するための準備を進めた。

9. 表彰

協会賞1名、功績賞2名、論文賞1件、技術賞1件、進歩賞1名、技術功労賞5名を表彰した。

10. 表面処理団体協議会（表団協）

本会と全国鍍金工業組合連合会、日本表面処理機材工業会の3団体で組織する表面処理団体協議会は、「表団協／産官学合同会議」を開催し、各団体での課題などについて情報交換した。また、第27回表団協セミナー（東京ビッグサイト、平成29年2月16日）をSURTECH 2017会期中に開催することとし、準備を進めた。

11. 支 部

北海道・東北・関東・中部・関西・九州の各支部は、それぞれの地域特性に対応した諸活動を活発に行った。特に、東北支部は第134回講演大会の成功に貢献した。また、支部長会議を1回開催し、支部間の情報交換を行った。

12. 部 会

本期に活動している部会は以下のとおりである。

- ① ライトメタル表面技術部会
- ② めっき部会
- ③ 材料機能ドライプロセス部会
- ④ 熔融金属表面プロセス部会
- ⑤ ウェットプロセス研究部会
- ⑥ 金属のアノード酸化皮膜の機能化部会
- ⑦ 溶射・ライニング部会
- ⑧ 表協青年経営技術懇話会
- ⑨ 表面技術環境部会
- ⑩ 表面技術とものづくり研究部会
- ⑪ 表協エレクトロニクス部会
- ⑫ ナノテク部会
- ⑬ 高機能トライボ表面プロセス部会
- ⑭ 将来めっき技術検討部会
- ⑮ 環境および機能性に関する塗料部会

13. その他

- 1) 常務会の下に「規程類の整備作業小委員会」を設置し、規程類の見直しを行った。